

令和元年度事業報告

1. 概 要

当センターは、これまで、会員の皆様や市当局、関係団体等のご理解、ご支援をいただきながら、攻めの姿勢でシルバー事業の運営に取り組んできております。

令和元年度は、引き続き国の補助事業である高齢者活用・現役世代雇用サポート事業等を活用する中、各種事業に積極的に取り組んだ結果、目標に掲げた会員数及び事業収入額を超えるなど順調な事業運営ができました。

特に、会員拡大においては、前年度に引き続き年間入会者数が 1,000 人を超え、年度末の会員数は、過去最高の 4,081 人、前年度比較 390 人の増となりました。

契約金額については、本年 2 月以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念されましたが、最終的に受託業務は、契約金額 998,087,242 円 前年度比較 36,143,443 円、3.8 %の増、派遣業務は、契約金額ベースで 649,722,749 円 前年度比較 159,217,243 円、32.5%の増となり、合計で 1,647,809,991 円 前年度比較 195,360,686 円、13.5%の増といずれも過去最高の実績となりました。

契約件数では、受託業務と派遣業務合計で、29,876 件 前年度比較 1,589 件の増となり、受託業務の配分金と派遣業務の賃金等の合計で 1,357,279,916 円、前年度比較 155,902,911 円、13.0%の増となっております。

派遣業務の就業実人員を加えた就業率については、83.7%となりました。
主な実施事業は次のとおりです。

(1) 就業開拓及び就業率の向上

① 就業推進グループによる事業所や一般家庭への就業開拓を、派遣業務に限らず請負・委任業務にまで拡大し、計画的、重点的に行いました。

なお、就業開拓にあたっては、グループ等の契約額に目標を定め、毎月開催する就業活動報告会で目標額の達成状況を確認するなど、徹底した進行管理を行いました。

- ・派遣就業契約件数 4,298 件
- ・派遣就業延人員 140,038 人

② 総務課、業務推進課、生活就労支援センター、会員困りごと相談窓口、ジョブコーディネーター間の連携強化を図ることで、受託・派遣に係るマッチング等を効率化し、就業拡大に努めました。

- ③ 繁忙期作業の平準化及びリピーター対策として、剪定、刈払等の既発注者に対し、発注のお礼を兼ね受注依頼文書を送付し、先行予約による受注拡大を図りました。

送付件数 927件 予約依頼件数 502件

- ④ センターへの仕事の発注が期待される企業、法人等に対し、発注依頼文書を送付し、連絡があった企業等を訪問するなど重点的な就業開拓を行いました。

5月 ・建設・電設関係 (270件)
6月 ・ハウスメーカー、カーディラー、小売り等 (181件)
7月 ・保育園・認定こども園 (188件)
・商工会議所(アイム)の広報チラシ折込み (6,200件)
8月 ・不動産業 (230件)
10月 ・小規模事業所 (249件)
12月 ・銀行、総合商社 (125件)

- ⑤ 国の補助事業を活用し、民生委員・児童委員等との連携による地域に根差した生活支援サービスを提供するため、「ふれ愛 たすけ愛 地域困り事応援事業」を実施し、サービスの担い手となる会員を養成するための研修会等を実施しました。

- ⑥ 鹿児島市と連携し、市内の空き家の管理、墓掃除等のサービス提供を引き続き実施しました。

・令和元年度市外からの受注実績
空き家管理(剪定、除草等含む) 670件 15,165,082円
墓守・墓掃除 112件 1,211,434円

- ⑦ 新規の就業開拓を行った会員へ就業開拓報奨金を交付しました。

・報奨金交付実績 ③⑩ 66件 → ① 68件

- ⑧ ジョブコーディネーターを常時配置し、未就業者等への就業案内や入会希望者へのきめ細かい説明を行うなど、未就業者対策の強化に努めました。

- ⑨ ホームページを週1回更新し、常に新たな就業情報の提供に努めたほか、入会説明会終了時、入会手続きをされた方に就業案内を行うなど就業率の向上に努めました。

- ⑩ お客様からの注文受付を24時間365日受付可能となるインターネット申込「たすか〜る」事業を12月1日から開始しました。

・受付件数 ① 44件

- ⑪ 鹿児島市の指定管理者として、「東千石・山之口・中町自転車等駐車場」、「すこやかランド石坂の里」及び「さくらじま白浜温泉センター」については、それぞれの施設の適正管理に努めました。
- ⑫ 就業開拓にあたっては、既発注者の掘り起こしや会員の希望の多い職種等の就業開拓を強化するとともに、各地域で開催されたイベント等でのチラシ配布を行うなど、センター事業のPRに努めました。

(2) 会員の拡大及び資質の向上

- ① 「ハローワークかごしま」へ毎週水曜日に就業推進グループ及び女性職員が訪問し、来訪者への会員勧誘を行うなど積極的に会員拡大を図りました。
- ② 会員拡大、就業拡大を図るため、シルバー広報用チラシを、より分かりやすく、よりアピールできるよう意匠や記事内容等を工夫するなど見直しを行い、7月、11月、2月に地域情報誌や南日本新聞で折り込みチラシを行い、市内全域に配布しました。
- ③ 就業支援セミナーを3回開催し、セミナー終了後、入会手続きや就労相談等を行うなど入会促進を図りました。

・就業支援セミナーの開催状況（開催場所：勤労者交流センター）

	開催日	講演内容	講師	参加者	入会者
1	1.6.15	一生楽しいコミュニケーション	MBCアナウンサー 上野 知子氏	94人	62人
2	1.9.7	働き続ける人は誰でも いつまでも若い	創志塾アドバイザー 石踊 政昭氏	53人	30人
3	1.10.19	鹿児島発信の芸能・音楽	ドゥワップシンガー ジミー入枝氏	47人	30人

合 計 194人 122人

- ④ 県連合会が主催した高齢者活躍人材確保育成事業での市民を対象にした就業のための各種講座の受講者に、当センターの概要を説明し、積極的に入会促進を図りました。

講 習 内 容	開催月	修了者	入会者
子育て支援講習	6月、10月	54人	38人
草払い（機械刈）講習	6月、9月	40人	29人
調理補助員養成講習	7月、11月	28人	20人
介護補助員養成講習	7月、11月	15人	15人
家事援助講習	8月、12月	13人	8人
剪定・整枝講習	9月、2月	44人	15人
店舗スタッフ講習	10月	7人	4人

合 計 201人 129人

- ⑤ 昨年に引き続き7月から8月を「入会促進キャンペーン月間」とし、積極的な広報活動を行ったほか、この期間に入会した方へ会員手作品をプレゼントするなど入会促進を図りました。

また、入会者が減少する1月以降についても、会費の減免措置を行うことにより、入会促進を図り、早期の就業につなげる取組みを行いました。

- ・7～8月入会者 ③① 180人 → ① 169人
- ・1～2月入会者 ③① 109人 → ① 128人
- ・3月入会者 ③① 95人 → ① 84人

- ⑥ 会員増加数全国一位、会員数4千人突破を記念して「シニア世代の人々にもっと明るく、楽しい人生を過ごしてほしい。」とシニア世代に喜ばれる内容のプログラムを構成し、多くの会員やシニア世代の方々の参加のもと、シニアオータムフェスティバルかごしま2019を開催しました。

センターのイメージアップを図り、新規入会の促進につなげるとともに、民放テレビや新聞などのマスコミに取り上げられ、センターの認知度向上が図られました。

- ・開催日時 令和元年10月29日 13時～16時10分
- ・開催場所 鹿児島市民文化ホール第2ホール
- ・内 容 演芸（ひまわり劇団）、島唄ライブ（川畑さおり）
ヴァイオリンミニコンサート（大迫淳英）
歌と踊り（歌・舞・候 WAGUMI）、講演（桂歌丸）
- ・来場者数 770人
(市民 435人、会員 304人、スタッフ 31人)

- ⑦ 女性限定入会セミナーを開催することで、女性会員向けの就業案内や女性会員の活動、アンテナショップ「おじゃったもんせ」等の紹介を行い、女性会員の加入促進に努めました。

(第1回)

- ・開催日時 令和元年7月17日(水)
- ・開催場所 勤労者交流センター
- ・内 容 講演「ビューティーシニア輝く未来へ」
ファッション&ヘアメイク変身術 塗木 由里子氏、中野 良美氏
- ・参加者 48人 ・入会者 18人

(第2回)

- ・開催日時 令和2年1月30日(木)
- ・開催場所 勤労者交流センター
- ・内 容 講演「私、らしく」
植田 美千代氏
- ・参加者 58人 ・入会者 45人
- ・視察来訪 尼崎市シルバー人材センター、伊丹市シルバー人材センター

- ⑧ シニア女性にもっと元気に、もっと美しく輝いてほしいファッションイベントとして「シニアビューティーアップ講座」を会員、市民向けにそれぞれ開催し、当センターの認知度アップ、イメージアップに努めました。

- ・開催日時 令和2年1月22日 10時 ~12時30分(会員向け)
13時30分~16時30分(市民向け)
- ・開催場所 鹿児島市勤労者交流センター(よかセンター)
- ・内 容 踊り太鼓、民謡、津軽三味線(ひまわり劇団)
ミニライブコンサート(ホルン、コントラバス、ジャズピアノ)
ビューティーアップ講座(講師:モデルプロダクション代表)
体験ブース(リップ&チーク、ハンドトリートメント、カラーセラピー、眉カット、プッシュ美顔、絵手紙教室デコパージュ体験)
- ・参加者数 286人(市民157人、会員129人)

- ⑨ 当センターの活動状況をより分かり易く説明するための入会説明会用ビデオ、センターの魅力をアピールするためのプロモーション用ビデオ、鹿児島県シルバー人材センター連合会によるテレビCM(多毛作篇、花を咲かせる篇)を6月10日に当センターのホームページに掲載しました。

⑩ 女性会員の拡大を目的とする「ひまわりの会」については、地域ごとに交流会を開催し、さらなる会員相互の親睦を深めるとともに地域リーダーの育成に努めました。

・地域交流会の開催 12月～2月 参加者 6地域 169名

⑪ 支部の会員拡大を図るため支部限定のチラシを作成し、各世帯に配布したほか、各地域で開催されたイベント等でチラシの配布や手作り品の販売を行うなど支部会員の拡大に努めました。

⑫ 生活、就労相談がワンストップで可能となる窓口として市が設置した「生活・就労支援センターかごしま」において、当センターの常設窓口での会員による入会相談等を行いました。

・相談受付件数 464件

⑬ 就業支援セミナーや入会説明会等において、入会に至らなかった方をシニアパートナーとして登録していただき、情報発信等を通して入会促進を図るとともに、就業を希望しない会員でも互助会や地域活動に参加できるプラチナ会員制度の周知に努めました。

・シニアパートナー登録者数 22人 その内入会者数 4人

・プラチナ会員登録者数 18人

⑭ 県シ連が協賛したイベント等において、当センターのブースを設置し、参加者等へ事業案内及び入会等に係る説明を行ったほか、引き続き会員による入会促進を図るため正会員入会報奨金を交付しました。

・交付実績 ⑳ 32件 → ㉑ 55件

⑮ 会員の技能向上、接遇向上を図るため各種研修会を実施するとともに、シルバー事業への理解を深めていただくため市民を対象とした講習会を実施しました。

(3) 適正就業の推進

① 令和元年度も引き続き「ゆずりあう心・笑顔の適正就業」をスローガンに、法令遵守はもとより「適正就業に関する基準運用方針」に基づき適正就業の推進に努めました。

② 就業期間が5年を超えている会員が多い職群においては、適正就業を図るため就業案内会を開催し、新たな会員の育成を図ったほか、駐輪・駐車班等においては、会員の交替が進むよう基準を設けるなど適正就業に向けた改善を行いました。

・駐輪班 就業案内会の開催 7月、2月

・運搬班 就業体験会の実施 随時

・公園、墓地清掃班 就業募集の実施 4月

- ③ 職群班である駐輪・駐車班、公園清掃班、墓地清掃班、運搬班等を通じ適正就業の意識が会員へ広く浸透するよう周知を行うとともに、就業会員の募集にあたっては、天保山通信やホームページ、庁舎内の掲示板等を活用し多くの会員への周知を図りました。

(4) 事業推進体制の強化

- ① 窓口の入会相談及び会員への就業案内など、相談者に寄り添ったきめ細やかな対応を図るため、ジョブコーディネーターを1人増員しました。
2人 →3人
- ② 当センターの現状及び今後を見据え、事業のより機動的・効率的な業務運営を行い、さらなる事業展開を図るため、業務推進課 業務係を分割し、総務課の各係を名称変更しました。
- ・業務係 → 業務第一係（主に公共関係）
業務第二係（主に民間関係）
 - ・総務係 → 総務企画係
 - ・経理係 → 財務係
- ③ 有期雇用職員3人を無期雇用職員へ転換しました。
- ④ 長年の懸案であった事務室の拡充・整備は、鹿児島市の全面協力のもと令和元年12月に完了し、従前に比べ事務室が広がったほか、作業室、相談対応スペースの確保が図られ、一体的な事務が行われるようになりました。
- ⑤ 就業開拓や事務局での電話対応、電算入力業務など、事務量の増加等に対応するため、積極的な会員活用を図りました。
- ⑥ 最低賃金の見直しや消費税の増税に伴い令和元年10月から配分金単価（受託）及び賃金（派遣）の改定を行いました。
- ⑦ センターの事業運営の概況等について、地域班会等で会員へ情報提供するとともに、地域ブロック内の合同班会やレクリエーション等を通じて会員の親睦交流を促進し、連帯感の高揚に努めました。
- ⑧ 全シ事業協会、九シ連絡協議会、県シ連合会等の総会、研修会等に役員、職員が参加するとともに、川越市、芦屋市、豊田市、浜松市などシルバー事業の先進地調査を行いました。

(5) 安全就業の推進

- ① 毎月、1日を「安全就業宣言の日」と定め、センターより安全に係る注意事項及び発生事故等の情報を各職群に配布し、それぞれ職群等で就業者全員の安全就業意識の啓発を行うなど、事故ゼロへ向け、取組みを強化しました。
- ② 安全就業推進委員会を開催し、発生事故の原因解明や再発防止策の検討を行ったほか、賠償事故については、「会員の事故防止に資するための措置要領」に基づき、当該会員へ文書注意等の処置を行いました。
- ③ 安全就業の推進を図るため、安全就業推進委員会の委員及び職員による予告なしの安全パトロールを実施し、機械、器具等の使用上の注意や現場での留意事項について指導を行うなど事故の未然防止に努めました。
 - ・安全パトロール実施時期等 7月～12月 20回
- ④ 刈払作業における飛び石事故防止のため、両刃回転式刈払機「カルマー機」の使用基準に基づいた使用の徹底を図り、飛び石事故の減少に努めました。
- ⑤ 派遣事業に伴う事故増加に対処するため、事故情報を中心とした派遣ニュースを発行し配布しました。
 - また、屋外作業を主体した会員を対象に、外部講師による安全講習会を開催し、安全意識の徹底を図りました。
 - ・参加者数 9月10日 195名、9月11日 248名 計 443名
- ⑥ 派遣会員による事故が増加傾向にあることから、安全就業推進委員会で事故防止に向けた協議を行うとともに、派遣会員の運転業務に係る適正検査を毎年、義務化し実施しました。
- ⑦ 会員の事故防止策として、職群班及び各支部、合同班会等において、事故の発生状況等を報告するとともに、安全就業についての講習や研修会を行うなど安全就業等への周知、徹底を図りました。
- ⑧ 安全意識の高揚につなげるため、引き続き安全就業に関する標語を募集し57点の応募があり、最優秀賞等の作品を選定しました。なお、標語については、事務所内に掲げるなど会員、職員の安全就業に対する意識啓発に活用しました。
- ⑨ これらの対策を講じたことで、令和元年度の発生事故は、傷害、賠償事故合わせて受託事業が27件、派遣事業が11件となり、前年度に比べ13件事故が減少しました。

・事故の発生状況(年度別推移)

区 分		28 年度	29 年度	30 年度	元年度	対前年増減
受 託	傷 害	12 件	17 件	13 件	12 件	△1 件
	賠 償	21 件	12 件	16 件	15 件	△1 件
	計	33 件	29 件	29 件	27 件	△2 件
派 遣	傷 害	2 件	8 件	18 件	7 件	△11 件
	賠 償	0 件	3 件	4 件	4 件	±0 件
	計	2 件	11 件	22 件	11 件	△11 件
計	傷 害	14 件	25 件	31 件	19 件	△12 件
	賠 償	21 件	15 件	20 件	19 件	△1 件
	合 計	35 件	40 件	51 件	38 件	△13 件

・令和元年度 月別事故発生状況

月 別		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受 託	傷 害	1	0	0	3	0	2	1	1	2	0	1	1	12
	賠 償	1	0	2	1	1	2	0	1	2	2	1	2	15
	計	2	0	2	4	1	4	1	2	4	2	2	3	27
派 遣	傷 害	0	0	0	1	2	1	1	1	0	0	0	1	7
	賠 償	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	1	4
	計	0	1	0	2	2	1	1	1	1	0	0	2	11
計	傷 害	1	0	0	4	2	3	2	2	2	0	1	2	19
	賠 償	1	1	2	2	1	2	0	1	3	2	1	3	19
	合 計	2	1	2	6	3	5	2	3	5	2	2	5	38

・事故の内訳

【疾病事故の傷病内訳】

傷病程度	骨 折	裂 傷	熱中症	打 撲	その他	計
受 託	8 件	0 件	1 件	1 件	2 件	12 件
派 遣	1 件	1 件	0 件	3 件	2 件	7 件
合 計	9 件	1 件	1 件	4 件	4 件	19 件

【賠償事故の原因別内訳】

事故原因	刈払(飛石)	刈払(接触)	剪定(接触)	車両(物損)	その他	計
受 託	9 件	1 件	0 件	1 件	4 件	15 件
派 遣	0 件	0 件	0 件	1 件	3 件	4 件
合 計	9 件	1 件	0 件	2 件	7 件	19 件

(6) 独自事業の推進

- ① 「ワンコインまごころサービス」については、引き続き市の支援を受け実施しました。

延利用回数（年間）

- ・100円 8,676回
- ・500円 265回

- ② アンテナショップ「おじゃたもんせ」で、会員手作りの野菜や手芸品及び賛助会員の乾物品等を販売に加えたほか、入会キャンペーンでのプレゼント品等をアンテナショップから購入することなどで、売上の向上を図りました。

・総売上額 4,238,005円

- ③ 会員の健康の保持、福利厚生の上をを図るため、会員が家庭常備薬等を市場価格より廉価で購入できるよう、特別医薬品の斡旋販売を行いました。

・斡旋販売額 565,930円

- ④ 年末物品販売については、毎年恒例の会員手づくりの桜島小みかんや乾燥しいたけ、米など多数の商品や、賛助会員からの商品販売に加え、令和元年度は商品引き渡しの日センター作業室にて新鮮野菜等の当日販売も行いました。

- ・販売商品数 32品目
- ・販売額 636,590円
- ・当日販売額 67,450円

- ⑤ 桜島フェリーターミナル内にある「ほほえみサロン」については、引き続き情報発信の場としての活用を図るとともに、市民向けの講座を4回、会員向けの講座を9回開催しました。

また、会員の困り事について、相談しやすい環境とするため、身近な会員が相談に応じることとし、「ほほえみサロン」の「会員困り事相談窓口」で毎週、火曜日に開設し、会員からの相談を受けました。

- ・講座開催 13回開催 95名参加
- ・困り事相談窓口 相談者数 127名

(7) 普及啓発活動の推進

- ① センターでの入会説明会、イベント等の案内を市広報誌「市民のひろば」に毎月掲載したほか、地域情報誌等を活用し、記事の掲載、折り込みチラシ、ポスティング等により、積極的な広報に努めました。

なお、記事、チラシ等については、より分かり易く、よりアピールするためキャッチコピー、意匠及び記事内容等を工夫するなど見直しを行いました。

≪主な広報実績≫

広告媒体	広告日	部数等	記事内容
リビング新聞	4月1日	270,000	入会募集（記事掲載）
〃	5月25日	270,000	就業支援セミナー・入会募集（記事掲載）
〃	6月22日	270,000	女性限定入会セミナー（記事掲載）
〃	6月22日	50,000	女性限定入会セミナー（ポスティング）
〃	6月29日	270,000	藤山理事長インタビュー（記事掲載）
〃	7月6日	240,000	会員・就業拡大（折込チラシ）
〃	7月13日	50,000	入会キャンペーン（ポスティング）
〃	8月10日	270,000	就業支援セミナー（記事掲載）
〃	8月10日	50,000	就業支援セミナー（ポスティング）
南日本新聞	8月10日	110,000	家事支援就業拡大（折込チラシ）
〃	8月19日	9,500	5支部会員・就業拡大（折込チラシ）
リビング新聞	9月7日	270,000	シニアホームフェスティバルかごしま（記事掲載）
〃	9月7日	50,000	シニアホームフェスティバルかごしま（ポスティング）
〃	9月21日	270,000	就業支援セミナー（記事掲載）
〃	9月28日	50,000	就業支援セミナー（ポスティング）
〃	11月30日	240,000	会員・就業拡大（折込チラシ）
〃	12月21日	50,000	シニアビューティーアップ講座等（ポスティング）
〃	1月18日	270,000	女性限定入会セミナー（記事掲載）
南日本新聞	2月25日	110,000	会員・就業拡大（折込チラシ）
リビング新聞	2月29日	270,000	就業支援セミナー（記事掲載）
南日本新聞	3月3日	110,000	家事支援就業拡大（折込チラシ）
リビング新聞	3月7日	50,000	就業支援セミナー（ポスティング）

②ホームページを毎週 1 回更新することとし、求人情報やイベント等に係る直近の情報を掲載したほか、新たに支部の活動状況等について紹介するため支部専用のページを設けるなどホームページによる広報宣伝に努めました。

③ 女性会員を中心に、会員の多才な芸能、技能を活用し施設等へボランティアで訪問活動をする「ひまわり劇団」の活動により、訪問した福祉施設等の多くの市民の方に喜んでいただいたほか、当センターの活動を広くアピールすることができました。

・活動状況 4月～3月 訪問回数 52回 訪問延べ会員数 315名

④ 当センターの事業等についての情報発信として、会報「かごしまシルバーだより」第73号(4月)、第74号(9月)を発行し、全会員へ送付しました。

なお、「天保山通信」については、地域班長等へタイムリーな情報を提供するため臨時号を含め5月、7月、11月、2月の年4回発行するとともに5月、11月発行分については全会員へ送付しました。

⑤ 派遣事業に従事する会員を対象に、事故防止の呼びかけや地域班会活動等の案内などを内容とした「派遣ニュース」を8月、1月に発行しました。

⑥ センター活動の宣伝、啓発等を図るため「おはら祭」に踊り連として参加したほか、10月の普及啓発促進月間に、山形屋3階のブリッジギャラリーで、会員59人、同好会(希楽会)の作品102点、センター事業の概要等を展示、紹介しました。

⑦ 事業案内や会員募集のため、センターのリーフレットを市役所及び各支所、高齢者福祉センター、各地域公民館等32施設に設置しました。

⑧ 各地域班、職群班において、地域でのぼり旗を掲揚し清掃活動等のボランティア活動を行ったほか、グループ就業時等においてのぼり旗を掲揚するなど市民への啓発に努めました。

⑨ センター事業の広報啓発を図るため、マスコミ等に対しあらゆる機会を捉えて情報発信しました。

※ テレビ、新聞等で取材を受けた主なもの

・ シルバー女性活躍（派遣）	《愛媛新聞》	5月
・ 定時総会、元年度事業計画等	《MBC テレビ》	5月
・ シルバー女性 広がる活躍	《産経新聞》	6月
・ 「スキル生かして」シルバー女性活躍	《毎日新聞》	6月
・ 県内シルバー人材センター特集	《MBC テレビ》	6月
・ 理事長インタビュー	《南日本新聞ピソク》	6月
・ 書の仕事 喜び 会員増加数 全国一	《南日本新聞》	8月
・ 南風録「高度成長期の担い手が地域の支え手に『銀の卵』」	《南日本新聞》	8月
・ ワンコインサービス他会員活動	《MBC テレビ》	9月
・ シニアオータムフェスインかごしま 2019	《MBC テレビ》	10月
・ シニアオータムフェスインかごしま 2019	《南日本新聞》	11月
・ たすか〜る事業（インターネット申込）	《MBC テレビ》	1月
・ ビューティアップ講座、女性限定入会セミナー	《MBC ラジオ》	1月
・ ビューティアップ講座	《MBC テレビ》	1月
・ ビューティアップ講座	《南日本新聞》	1月

⑩ 会員数の増加や派遣事業が拡大している当センターの取り組み状況を調査するため、全国のシルバー人材センターが来訪され、意見交換を行いました。

○ 他都市からの調査

- 5月21日 寒川町（神奈川県）町議会来訪
- 8月2日 西条市役所（愛媛県）来訪
- 10月2日 仙台市シルバー人材センター来訪
- 4日 うるま市・中頭地区青年・女性会来訪
- 11月20日 大分市シルバー人材センター来訪
- 〃 神奈川県議会来訪
- 1月29日 尼崎市・伊丹市シルバー人材センター来訪
- 2月7日 水戸市シルバー人材センター来訪